



TITLE:

静脩 Vol. 7 No. 1 (1970.5) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 7 No. 1 (1970.5) [全文]. 静脩 1970, 7(1)

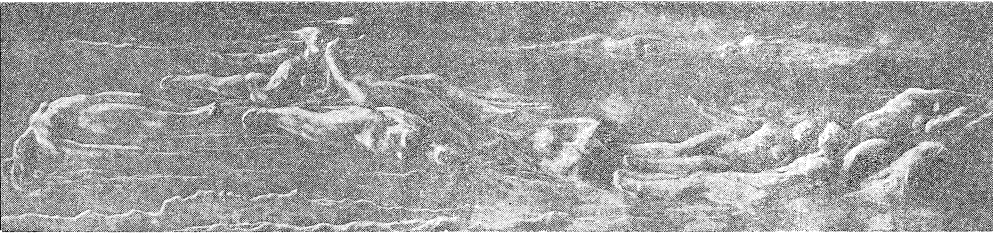
ISSUE DATE:

1970-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65936>

RIGHT:



静脩

1970年 5月

Vol. 7, No. 1

The Kyoto University Library Bulletin

学部教育と図書館

野原 義次

今次の大学紛争において、学生諸君の問題提起は「大学における研究偏重および教育不在」である。ことに古い大学の教育体制が新しい情報時代の教育に即応できなくなったことは明白であり、現在、大学人は新しい大学像への模索をつづけている。この時期に大学の図書館もまた脱皮の時期にあるはずである。

一体大学の図書館の意義は何であるのだろうか。今までの図書館のあり方は研究の面にその焦点を置き、教育の面からは、それほどの配慮が払われていなかったのではないか。学生が自主的に修練する場としての十分の設備ができているといい得るであろうか。ことに医学部においては基本的知識の修得が不可欠であるが、1学年100余人の学生に対して見合う程度の図書の備付があったであろうか。また学問の発展、細分化により、学生の修得すべき事項の増加に伴い、単に印刷物のみでなく、教育技術として発達せる種々の学習装置の設備が考慮されていたであろうか、等々数えあげて見ると、学部教育から見た図書館のあり方ということについては、われわれ反省せねばならぬ点があまりに多い。もちろん、医学部においては新しい図書館ができて以来、これらの点はある程度改善されてきてはいる。

しかし、一層根本的なことは、少くとも医学部の図書を見わたすと、医学部教育それ自身についての図書および資料が誠に貧弱ということであり、医学教育に対する関心の貧困さを如実に感ぜさせられるのである。教育改革は大事業であると考え、世界的視野に立って、自からの道を見出す他はないものと考え。

さらに研究の面から考えても、改革の余地は多々残されており、またこれらの改革に伴い、事務機構の改善も、当然考慮にいれねばならぬ。

図書館機能の改善、発展は大学改革の一環としてあるべきである。用意周到に検討、計画された教育および研究改革に基づいて、図書館の改革も行なわれるべきである。それがためには各種改革委員会と平行して、図書館改革委員会が各学部において強力かつ密に活動に移されるべきであろうと考える。

(医学部助教授)

図 書 館 商 議 会 専 門 委 員 会

第4回：昭和45年3月25日（水）第5回：4月22日（水）

〔第4回〕 議題：国立大学協会図書館特別委員会の中間報告（案）について

国立大学協会では、図書館特別委員会を設け、この数年来、大学図書館の問題を検討しているが、昨年大学問題の一環として、「大学の研究と教育に対する図書館のあり方とその改革について」検討し、本年2月その成果を「中間報告」という形で発表して、広く意見を求めている。したがって、専門委員会でもこの問題を取りあげ、中間報告に対する図書館の意見をまとめることになった。

中間報告は現在の国立大学図書館の直面している諸問題を全般的に取りあげ、それぞれの問題に対する幅広い展望をあたえ、問題の所在を明確に指摘している。その点は高く評価しなければならないが、指摘された問題をどのように解決していくかという具体的な提案が少ない。

審議は字句の点にまで、細部にわたったが、本日の審議の結果を事務部で意見書として、取りまとめることになった。

〔第5回〕 議題：部局図書館のあり方について

現在、人文・社会科学系部局における蔵書の保管は、書庫が狭隘で、きわめて深刻な問題になっている。さらに、教養課程の改革により、1・2回生の部局所蔵図書に対する要求も、今後増加すると思われる。

従来、部局図書館は研究図書館としての機能を強く持ち、本館および教養部図書室は学習図書館としての機能を持っていたが、今後部局図書館に対する学生の要求が増大すれば、部局図書館には学習図書館の機能も加わらざるを得なくなるのではなかろうか。

また、全学図書館間の連絡調整の不充分さは、国大協の「中間報告」でも強く指摘されているが、このような総合図書館の機能を本館が強く果していくためには、本館の機能から学習図書館の機能を部局図書館に分散し、本館の総合図書館的機能を強化してはどうかという意見が討議された。この問題はきわめて重大であるため、今後とも検討を続けることになった。

大 学 図 書 館 改 革 問 題 懇 談 会

第5回：昭和45年4月3日（金）第6回：4月17日（金）

〔第5回〕 議題：国立大学協会図書館特別委員会の中間報告（案）について

今回出された中間報告（案）についての主要な意見

1. まえがきには「必らずしも現行法令の限界内に止まっているものではないことをお断わりしたい。」とあるが、問題解決の糸口を具体的にみつけようとする際、必らずしも現行法の域を出ようとしていない。（例えば「大学図書館専門職制実現の方策と考慮すべき問題点」の例列挙事項中）

2. 「研究室に附属する図書館（室）」という表現にみられるような「附属する」という概念からは、自からのいう抜本的な改善はなされない。したがって「既成概念打破の心要」をのべながらも、研究図書館と学習図書館の両機能を統一した図書館組織の実現という点で迫りに欠けている。

3. 「大学図書館における情報処理と機械化について」は、図書館職員の人手不足による業務停滞が、電算機化によってのみ解決されるかのごとく述べられているが、この考えかたは至当でない。

〔第6回〕 議題：部局図書館のありかたについて

はじめに、今回より図書館改革の個々の問題点を取りあげ、検討を深めていくことがきまり、その最初として“部局図書室の利用者にたいするサービス”を取りあげることになった。

まづ部局によっては、大学院生を研究者に入れるところとそうでないところがあり、当然それによって利用上の取扱いにも差異があること、さらに学生といっても教養部学生も利用しているところがあり、その範囲は一定していないことが、それぞれの報告から明らかとなった。

つぎに理学部の一教室から、教育体系の改革にともなう一つの問題として、学生の図書借出しに混乱が生じているという報告がなされ、それにたいして質疑応答があった。

そのあと、現在学生が所属部局外の図書を借出すときに使用されている「学内図書相互利用書」の制度について意見が出された。

今回の主な報告・意見の概要

1. 理学部学生の図書借出しについて

- 昨年9月に教育体系の改革が行なわれ、いわゆる“新教科”がスタートした。苦しい陣痛を経て生まれたこの制度は、教育の閉鎖的になることをさけ、学生の主体性・自主性を尊重したものであるが、その結果学生の図書借出しの手続きが複雑化し、制限がより大きくなったようだ。これは学生は教室の枠をはなれたが、図書はいぜんとして教室に所属しているギャップから生じている問題だと思う。

- 実務担当者である図書館職員が不参加の形で、改革がなされたために生じた結果ではないか。また教官に比して学生の図書借用に大きな制限があるのは差別ではないか。

2. 学内図書相互利用書について

- これに図書室印を捺しているのは身分保証的な意味しかもっていないのではないか。それなら学生証だけで全学の図書が自由に利用できる理想へ一歩でも進む路が考えられないか。

〔付記〕 • その後理学部では、学生の図書貸出し制度の統一と、学生が他学部所蔵図書を利用するときに必要な「学内図書相互利用書」の十分な活用について考慮中である。（5月9日）

- 附属図書館よりの世話人中川治夫に正式決定。

———— ニュース

本学 OECD の寄託図書館に指定さる

OECD（経済協力開発機構）は、経済、貿易、金融、開発援助、産業、教育、科学、労働力、社会問題等について、各種の研究・報告を出版し、一般に公表することを仕事の1つとしているが、このことと関連して、世界各国に多くの寄託図書館を指定・設置している。

本学では、昨年8月、外務省を通じてその指定の依頼があり、同年10月、正式に指定する旨連絡がとどき、これにともなって、経済学部が資料の保管・運用を行なうことになった。

今後、OECDより刊行されるすべての出版物が送付されることになっているが、現在のところ、経済関係を中心にして約240冊が到着している。なお、寄託指定を機会にして、4月27、28、30日の3日間、附属図書館において、資料展示会が開催された。（入館者 163人）

附属図書館最近受入の「参考図書」

—人文・社会学関係—

これは昨44年度末の短期間に受入したもので、この大半は参考図書室に配架しています。参考図書室には、この他約4,000冊の辞書・年鑑・索引・文献目録などがありますから、おおいにご活用ください。

〔例言〕・排列は「日本十進分類法」の順（見るときの手がかりとして、ところどころに分類綱目名をあげている）

- ・記載は書名・著（編）者名・刊年の順
- ・刊年は西暦「1900」年のはじめの2桁「19」を略

図書館

Dictionarium bibliothecarii practicum. Z.
Pipics 69

参考調査法 長沢雅男 69

レファレンス・ワーク 小田泰正 68

文献探索学入門 佃実夫 69

専門情報機関総覧 昭和44年版 専門図書館協議会 69

図書 目録

本の問答 300 選 出版ニュース社 69

Universal reference system. v. 1-10 69

便利な文庫の総目録 森浩太郎 70

哲学

思想の科学事典 久野収他 69

行動科学事典 B・ベレルソン他 67

心理学 倫理学

創造性研究ハンドブック 稲山貞登他 68

倫理学事典 金子武蔵 66

世界名言事典 梶山健 68

宗教

宗教辞典 梅田義彦 68

宗教ハンドブック 萬波教他 68

諸宗教事典 比屋根安定 63

Dictionary of mythology, folklore & symbols. G. Jobes 62

新・佛教辞典 石田瑞磨他 68

Japanese-English Buddhist dictionary. 大東出版社 65

（織田）佛教大辞典 織田得能 69

歴史

三六五日事典 ～今日はどうな日か～ 社会思想社 68

源平史料総覧 遠藤元男 66

江戸生活事典 稲垣史生 68

江戸武家事典 稲垣史生 68

江戸編年事典 稲垣史生 66

考証 江戸事典 南條範夫他 69

武家編年事典 稲垣史生 68

伝記

人物文献索引 経済・社会編 国立国会図書館 69

日本博士録 昭和40年度 帝国地方行政学会 67

明治維新人物事典 幕末編 奈良本辰也 68

人物逸話辞典 上下 森銑三 68

日本逸話大事典 1～8巻 白井喬二他 67

大正人物逸話辞典 森銑三 66

明治人物逸話辞典 上下 森銑三 65

現職・新中国人名辞典 68年版 アジア研究所 68

地理

郷土史辞典 新版 大塚史学会 69

明治以降本邦地図目録 日本国際地図学会 69

五万分一地形図(昭和41年5月1日現在) 1,259図 建設省国土地理院 66〔雑誌室所在〕

二万五千分一地形図 1,834図 建設省国土地理院 発行中〔雑誌室所在〕

日本分県地図地名総覧 1970年版 人文社編集部 70

京阪神市街地図集 1970年版 大阪人文社編集部 70

琉球人名地名辞典 阪巻駿三 64

現代中国事典 中国研究所 69

日本主要図書館・研究所所蔵 中国地方志総合目録 国立国会図書館 69

Атлас СССР. ГИГКССР 69

政治

選挙用語辞典 自治省選挙局 68

左翼団体事典 1968年版 社会運動調査会 68

行政管理用語事典 矢倉一郎 69

- 公務員要覧 1969 69
 自治用語辞典 自治大学校 69
 都道府県市町村便覧 昭和45年度 69
 日本都市年鑑 昭和44年版 全国市長会 69
 平和運動20年資料集 日本平和委員会 69
- 法律・経済**
 法律経済語大辞典 鶴飼信成監修 69
 家庭法律大事典 中川善之助 69
 (体系) 刑法事典 木村亀二 69
 外国会社要覧 1969 ダイアモンド社 69
 マネジメント・リサーチ 同編集委員会 67
 事務機械化ハンドブック 第1〜2集 小沢暢夫 日本事務能率協会 66
 企業会計諸則集 同文館 69
 財政会計辞典 高辻正己他 69
- 社会学 社会問題**
 社会保険事典 氏原正治郎他 68
 英和労働用語辞典 労働省 68
 賃金事典 藤本武 67
- 教育**
 教育社会学辞典 日本教育社会学会 67
 児童心理学ハンドブック 波多野完治他 69
 ソビエト教育科学辞典 ソビエト教育学研究会編訳 63
- ことわざ・農政・交通**
 俳説ことわざ辞典 鈴木棠三 69
 原典による近世農政語彙集 森田誠一 65
 日本街道総覧 宇野脩平 67
- 美術 工芸**
 西洋美術事典 ピータ&リンダ・マーリ 68
 美術鑑定事典 野間清六他 68
 レタリング大字典 井田一衛他 69
 書道六体大字典 藤原楚水 69
 カメラとレンズの事典 愛宕通英 69
 現代デザイン事典 H.B.デザイン研究会 67
 色彩科学ハンドブック 色彩科学協会 66
- 音楽 舞踊 演劇**
 Handbook of music terms. P. Grant 67
 名曲事典 属啓成 69
 歌劇大事典 大田黒元雄 62
 邦楽舞踊辞典 渥美清太郎 65
 明治大正新劇史資料 田中栄三 64
- 日本語**
 明解日本語アクセント辞典 三省堂 69
 喜怒哀楽語辞典 飯泉六郎 69
 女性語辞典 真下三郎 67
- 東洋語**
 支那文を読むための漢字典 田中慶太郎 68
- 漢字語源辞典 藤堂明保 69
 現代朝鮮語辞典 天理大学朝鮮学科研究室 67
 日朝小辞典 宋枝学他 66
 A Tibetan-English dictionary.
 H. A. Jäschke 68
 Thai-English dictionary. G. B. McFarland 60
 満洲語口語基礎語彙集 山本謙吾 69
 A Turkish-English dictionary. H. C. Hony 67
 A Sanskrit-English dictionary. M. Monier-Williams 64
 Concise Pāli-English dictionary. A. P. Buddhadatta Mahāthera 68
 Practical dictionary of the Persian language. J. A. Boyle 65
- その他の外国語**
 The American heritage dictionary of the English language. W. Morris 69
 英語類語辞典 増訂版 井上義昌 68
 和英熟語慣用句辞典 C. Corwin 69
 Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache. F. Kluge 67
 Der Sprach Brock-Haus ; deutsches Bildwörterbuch für Jedermann. 67
 Deutsches Wörterbuch. L. Mackensen 67
 和西大辞典 田井佳太郎 69
 Norsk-engelsk. R. Christophersen 66
 Svensk-engelsk ordbok. W. E. Harlock 68
 The concise Oxford French dictionary.
 A. Chevalley 68
 Dictionary of French and English slang.
 M. J. Leitner 65
 フランス文法事典 朝倉季雄 69
 (最新) 葡和辞典 星誠 69
 葡和新辞典 大武和三郎 69
 Dicționar român-englez. L. Levițchi 65
 Этимологический словарь русского языка. Том 1-2. М. Фасмер 64, 67
 Русско-английский словарь книговедческих терминов. Б. П. Каневский 69
 Толковый словарь живого великорусского языка. Том 1-4. Блаимирд аль 55
 Bulgarian-English dictionary. R. Russev 53
 Česko-anglický slovník. I. Poldauf 68
 English-Greek dictionary. S. C. Woodhouse 59
 ハンガリー語小辞典 今岡十一郎 58

A Coptic dictionary. W. E. Crum 62

文学

世界文学鑑賞辞典 I—IV 鈴木幸夫他 67~68

世界文芸辞典 同編集部 64~67

近代詩鑑賞辞典 吉田精一他 69

芭蕉辞典 飯野哲二 69

川柳大辞典 上下 大曲駒村 67

江戸川柳辞典 浜田義一郎 68

狂言辞典 語彙編 古川 久 66

江戸小咄辞典 武藤禎夫 68

Dissertation in Eng. and Amer. literature.

Suppl. 1: Theses accepted by American, British and German Universities, 1964/'68

L. F. McNamee 69

A classified bibliography of writings on Eng. philology and medieval Eng. literature.

Akio Oizumi 69

20世紀英米文学ハンドブック 上田勤他 69.

The reader's encyclopedia of Shakespeare.

O. J. Campbell 66

日本におけるバルザック書誌 厚政夫 69



農学部・教室図書室

食品工学雑誌閲覧室

農学部構内北より5階建ての新しい建物がある。そこが食品工学の教室であり、雑誌室は5階の北側にある。晴れた時は数十羽の鳥が薨の上を群舞し、もやに烟る日は大小さまざまな友禅工場の煙突が目につく。比叡山をはじめとし、鞍馬、雲ヶ畑、ひいては西山連山までが一望に見わたせ、その眺めは読書に疲れた研究者の目をいやしてくれる。

当雑誌室は誕生して日も浅く、雑誌も今年度より新規購入している。従って研究資料は今のところ農芸化学の雑誌室に負うところが多いが、内容的にだぶらないように雑誌類の選択を行ない、洋雑誌26種、和雑誌23種でスタートした。将来も全体として農化雑誌室との関係をもちながら、当教室独自の専門的分野を充実させる計画である。

雑誌選択、室の運営は、利用者全員の意見が反映されるよう、学生を含んだ図書委員会では決められている。利用者に便利なよう、これからも努力するつもりでいるが、職員1名のため思うようにいかず、夜間開室の希望も多いが実現していない。室が45m²と狭く、将来蔵書が増えた時にどうするかが、問題の一つである。

あとがき 本年度は京都大学の改革—またその一環である図書館の改革—にとって、重大な年度になると思います。

下記に本年度の「編集員」と「編集連絡員」の名簿をあげます。図書館の改革にたいして、ひろく全学内の意向が反映されるよう、これらのものを利用して「静脩」へご寄稿くださるようお願いいたします。

編集員

小国 健一(図), 大沢 紀子(図),
山本 修(図), 古原 雅夫(医),
沢居 紀充(経)

編集連絡員

矢野 保之(図), 笹本 光代(図),
小山 隆義(図), 望月美智子(図),
近藤禎梃男(文), 糟谷 桃代(教育),

山田 忠彦(法), 川喜田 春(理),
金井 孝(薬), 武内 隆恭(農),
井狩らく子(教養), 高橋 利子(人研),
小関 素恒(経研), 藤原美智子(数研),
三浦 勝利(化研)

もとむ原稿!

図書館は利用者みなさんとの対話をもとめています。全学の図書館・図書室について、ご意見・ご希望などを「静脩」によせてください。そして図書館・利用者双方の話し合いと協力によって、図書館を便利で、役に立つ、楽しいものに改革していきましょう。

とどけ先: 全学の図書館・図書室
(原稿用紙を準備しています。)

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 7, No. 1 (通号32号) 1970年5月15日発行・編集発行人:
岩瀬敏生 発行所: 京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線) 2220~2238